

# セアカゴケグモ

腹部が丸く、赤い斑紋があるのが特徴のクモです。側溝や隙間のあるところなどに生息します。咬まれると危険なので注意が必要です。

## ■ 原産地

オーストラリア。

## ■ 形態と生態

雌の成体は体長 7～10mm、色は黒色で、腹部背面に鮮やかな赤い斑紋がある。雄の成体は体長 4～5mm、体色は灰白色で、腹部背面に白い斑紋がある。毒があるのは雌のみで、雄は無毒。雌雄ともに攻撃性はない。

日当たりのよい側溝、石の隙間や配管の中などに好んで営巣する。温暖な地域に生息し、虫を食べる。繁殖期は夏で、10～200 個の卵が入った卵のうを 7～8 個産む。

## ■ 移入経路と現状

1995 年に、大阪府の埋立地で初めて確認された。貨物や建築資材などに付着して海外から持ち込まれた可能性が高い。現在では大阪府、三重県、兵庫県、和歌山県、奈良県、愛知県などに生息している。

## ■ 影響

現在のところ、県内では咬傷被害は報告されていない。自然生態系には侵入していないが、今後、海岸部などに侵入する可能性がある。

## ■ 類似種との識別点

ムナグロヒメグモ（雌）やアシフトヒメグモ（雌）など、在来種の中で腹部背面の斑紋が似た種がいるが、これらの種では腹面の斑紋がないことで識別できる。

## ■ 対策

個体や卵のうの除去、殺虫剤による駆除が実施されている。西南諸島の石垣島や西表島では薬剤散布により根絶した。不用意な接触防止や分布拡大防止について、多くの人に知らせてもらうことが重要である。

クモ目ヒメグモ科

学名：*Latrodectus hasselti*



クモ類

## ■ 選定状況

条例公表

特定外来

要注意

日本  
ファースト  
100

世界  
ファースト  
100

## ■ 県内の確認状況



識別ポイント：  
腹部に赤い斑がある

（愛知県衛生研究所ホームページより）



（写真提供：緒方清人氏）

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

植物